



障害のある人の「障害」は、その人が持っているものではなく、環境側、社会の側にあるという視点で、障害のある人が当たり前に暮らせる環境のあり方について研究しています。
(以上のような考え方で、「障害」の「害」の字はひらがなを使っていません。)

略歴

社会福祉学科を卒業後、福祉分野の仕事に従事、その後、建築学科で学び、東洋大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程修了、博士（工学）。聖学院大学人間福祉学科教授を経て、2017年4月に日本工業大学（現）建築学部建築学科生活環境デザインコース教授に着任。高齢者、障害のある人の住環境整備に関する研究に従事。

研究紹介

高齢者、障害のある人の住環境整備に関する研究

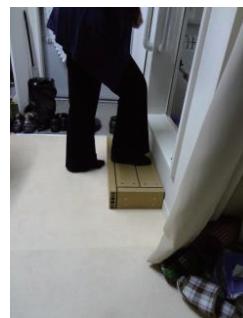
1.認知症の人も使いやすいパブリックトイレの研究

外出先のトイレで家族と離ればなれになった、水を流すボタンがわからない、ドアのカギが開けられないなど、認知症の人にはバリアがたくさんあります。それが原因で外出を諦めることがないよう、パブリックトイレのデザインをしています。



2.高齢者、障害のある人の災害時の避難生活に関する研究

災害時に長く続く避難生活は、高齢者、障害のある人には大変過酷です。できるだけ、もとの生活に近い環境で暮らすことができるよう仮設住宅などの住環境について研究しています。



3.さまざまな疾患、障害の特性に合った住環境の研究

疾患や障害によって住環境で配慮すべき点は様々です。時間をかけて、多くの障害当事者の方の調査をおこない、それとともに、一般の方向けにハンドブックを作成しています。



論文発表等

- 1) 野口祐子：認知症高齢者の公共トイレの課題—困りごと調査と操作系設備の検証から—, リハビリテーション・エンジニアリング Vol.34 No.2, pp.52-55, 2019
- 2) 野口祐子：公共トイレハンドブック（認知症編）を作成, NHK厚生文化事業団第3回認知症とともにいきるまち大賞ニューウェーブ賞受賞, 2019

共同研究の事例

- ・認知症の人に優しいスーパー・マーケットプロジェクト（みずほリサーチ&テクノロジーズ、株式会社マイヤ）
- ・認知症の人に使いやすいパブリックトイレ（株式会社LIXIL）
- ・発達障害のある子どもの公共トイレに関する利用実態調査（横浜市総合リハビリテーションセンター）
- ・発達障害のある子どもの住まいの音に関する研究（横浜市総合リハビリテーションセンター）